

人権同和教育委員会

1 研究テーマ

人権を尊重し、あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒を育てるための指導のあり方

2 研究課題

(1) 研究授業

実施期日：平成20年11月19日（水） 須坂市立仁礼小学校

題材名：「なかよしゲーム」

授業学級：3年仁組（男子13名 女子12名 計25名）授業者：金子 忍教諭

(2) 研究の重点

部落差別をはじめ、あらゆる人権問題の解決を目指すためには、自分を大切にしたり、友だちも大切にしたりする心を育てることが重要であると考え、そのために、「友だちとのかかわり合いを通して、お互いの人権を尊重し合えるための活動はどうあったらよいか。」を研究課題として研究を進めた。

3 指導の実際

仁礼小学校3年仁組では、子どもたちがかかわり合いながら活発に意見交換し、追究を深めることによって、教科・領域のねらいが達成できる授業づくりを目指している。人とかかわり合う力を高めることは、人権同和教育が担っている課題でもある。

金子学級の子どもたちは、これまで、「友だちへのありがとうカード」や「友だちのいいところさがし」を通して、悩みながらも一生懸命に友だちのよさを探そうとする姿が見られたり、「グリーンアルム（近所の高齢者福祉施設）でのお年寄りとの交流」を行ったりしながら、思いやりの気持ちを育てるための活動に取り組んできている。しかし、普段、トラブルを引き起こすことが多い友だちに対して、「〇〇君は、いつもそうなんだよ。」といった特定の子どもに対するレッテルを貼ったような言葉が聞かれることも課題としてある。

そこで、「自分や友だちがかけがえのない存在であることを学ぶための学級づくりはどうあったらよいか。」また、「自分や友だちのよいところをさがし合い、お互いの人権を尊重し合えるためには、どのような活動を仕組んでいったらよいか。」を研究の柱とした。

○研究内容

(1) 自尊感情について

自尊感情（セルフエスティーム）とは、「外見、性格、長所、短所、障がい、特技など、自分のすべての要素をもとに作られる自己イメージを客観的に見て自信を持ち、自分を大切にしようと思う気持ち」と、とらえたい。従って、自尊感情が高いということは、自己イメージが高く、「自分は価値のある人間だ。」と思うことができ、何か苦手なことがあっても、自分が好きで、「自分を大切にしよう。」という気持ちが強いということである。また、自分のよいところばかりではなく、「短所・弱点

を含めて自分が好きで、大切にしたいと思うこと」が大切である。

その際、「自分は自分で、他人は関係ない。」という意識を肥大させてしまうのではなく、「自他を尊重する。」気持ちを育てていくことが大切である。

(2) 「友だちとのかかわり合い」について

人とかかわり合いとした場合、親や教師やかかわりのある大人、同じクラスに所属する児童や同学年・異学年の児童など、様々な対象がある。友だちとのかかわり合いとした場合にも、仲のいい普段最もかかわり合いが深い友だちもいれば、あまりかかわりのない友だちもいる。「友だち」を同じクラスに所属し、普段一緒に学校生活を送っている児童と考え、仲のいい級友も、かかわりが希薄な級友も含めて考える。

「かかわり合い」には、お互いにとってプラスになるようなかかわり合いもあれば、逆にマイナスに働くかかわり合いもある。かかわり合うときには、働きかける者とそれを受ける者がいる。

○実証授業

授業では、なかよし旬間中に、「友だちと仲よくするためにはどうしたらよいか。」を考えてきた子どもたちが、仲よくするための視点にそって、「絵合わせゲーム」や「探偵ゲーム」を行ったり、感想を発表し合ったりする活動を行った。その中で、子どもたちは、友だちと協力して、絵合わせをしたり、言葉をかけ合って、探偵ゲームを行ったりする姿が見られた。

この活動を通して、自分や友だちのよいところに気づくことができたと思う。

4 この事例から明らかになったこと

(1) 「友だちと仲よくするために」という単元を設定したことによって

自分や友だちがかけがえのない存在であることを学ぶよい機会となった。自分のよいところを友だちから言ってもらったり、友だちのよいところを発見したりする活動を通して、自分というものが大切な存在であることや、同じように友だちも大切な存在であることを実感することができた。

(2) なかよしゲームという活動をしたことによって

楽しい雰囲気の中で、友だちと協力して絵合わせを行ったり、友だちとかかわり合いながら探偵ゲームを行い、友だちが自分のよさを見てくれた。という喜びの気持ちや、自分が友だちのよいところを一生懸命探すことができた喜びの気持ちを持つことができた。

5 来年度への課題

- ・研究テーマにある「あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒」の姿を探り、人権同和教育の学習に取り組むことによってどんな力がついたのかを具体的にしていく。
- ・友だちの「よさ」の中味を具体的に学習をすすめて行くことが重要である。
- ・部落差別問題を学習するときにも、コミュニケーション力・問題解決力を意識しながら進めたい。

6 その他

なし